

支 部 長 挨 拶

2005年5月末に開催されました北海道支部の理事会におきまして、松尾支部長の後、第24期後半の支部長をお引き受けすることになりました。前支部長の意向を踏まえ、北海道支部の発展のために微力ながら努力したいと思いますので、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願いします。

気象学会の会員には、様々な研究分野、組織に属する方々があります。気象台関係者、大学関係で研究に従事されている方、民間の気象事業に関係されている方、個人で参加される方など様々ですが、近年支部の会員数は残念ながら暫減の傾向にあります。

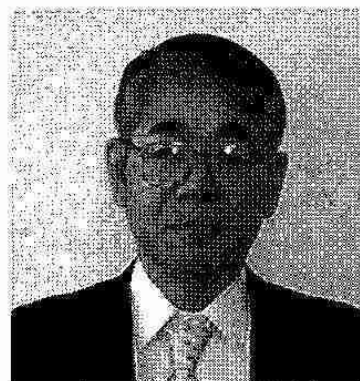
その原因は、インターネットの普及により、会員でなくとも色々な専門的な情報が容易に得られるようになったこと、学問が高度になり敷居が高くなっている印象を与えること、理科離れなど一般社会の風潮などが考えられます。学会が多様なバックグラウンドと専門分野を持つ方の集まりであることを考えると、自身が学会員であることを認識したうえで、異なる専門、考え方を持つ会員が自由に交流し、互いに気象学およびその周辺の知見を深めることが重要であり、支部活動の意義も、そこにあると思います。

会員以外の一般市民との交流も、視野を広げたり、学会の活動に対する社会の理解、関心を深めるうえで欠かせません。

北海道支部では、本年度第23回夏季大学気象講座を去る7月26日、27日に開催し、やや少なめの参加でしたが21名の熱心な受講者がありました。内容については、この細氷に掲載しています。また、10月には、稚内市において、「宗谷地方の強風 ～身を守る知恵と生かす知恵～」をテーマに気象講演会を開催します。

また、昨年12月1日から新たに支部のホームページを立ち上げました。ホームページの充実などはこれからの課題であろうと思います。

折しも最近北海道では一昨年の台風第10号による大雨被害に続き、昨年は台風第18号により、洞爺丸台風以来という風の被害を被りました。また、昨年度の冬は、最近では珍しい雪の多い寒い冬となり、社会経済に様々な影響をあたえています。気象に対する社会の関心の高まりを捉えて、新しいアイデアを会員が出し合い、支部の活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、会員各位のご協力をお願いします。



(社) 日本気象学会北海道支部
支部長 濱田 信生
(札幌管区気象台長)